

# 日本思想史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本思想史概論	「読書の文化史」への招待	2	引野 亨輔	4	後期月曜日4講時	
日本思想史概論	日本思想史入門	2	片岡 龍	3	前期火曜日3講時	
日本思想史基礎講読	『役君形生記』を読む	2	富樫 進	3	前期金曜日2講時	
日本思想史基礎講読	近世史料を読む	2	片岡 龍	4	後期火曜日5講時	
日本思想史各論	仏菩薩と文献史料のあいだ	2	富樫 進	6	後期金曜日2講時	
日本思想史各論	怪異から考える日本思想史	2	木場 貴俊	集中	集中講義	
日本思想史各論	日本の思想文化	2	片岡 龍	5	前期月曜日3講時	
日本思想史各論	西欧化日本の研究	2	片岡 龍	6	後期火曜日3講時	
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 I	2	引野 亨輔 片岡 龍	5	前期水曜日3講時	
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 II	2	片岡 龍 引野 亨輔	6	後期水曜日3講時	

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB41402, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「読書の文化史」への招待
2. Course Title (授業題目)：Invitation to the Cultural History of Reading
3. 授業の目的と概要：かつて思想史研究は、著述に込められた作者の真意を読み取ることに力点を置いて進められてきた。しかし、近年盛んになりつつある「読書の文化史」に影響を受け、思想史の方法は大きく変化した。まず、書肆によって書物に施される諸工夫が、読者の読解に大きな影響を与えるものとして注目されるようになった。さらに、読者たちの多様な「誤読」こそ、実は著述の意味生成に大きく関与していることも明らかになった。そこで、本授業では、こうした成果を踏まえつつ、作者・書肆・読者の緊張関係のなかで展開している日本思想史の新たなかたちを探究する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Traditionally, intellectual history research has been carried out with an emphasis on reading the true intentions of the author contained in the work. However, the method of intellectual history has changed drastically under the influence of the cultural history of reading, which has become popular in recent years. For example, the ingenuity applied to books by bookstores has come to be regarded as having a great influence on the reading comprehension of readers. Furthermore, it became clear that the various misreading of the readers are, in fact, greatly involved in the generation of meaning in the writing. Therefore, in this course, based on these research results, we will explore a new form of Japanese thought history created in the tension between the author, the bookstore, and the reader.
5. 学修の到達目標：本授業の到達目標は、「読書の文化史」に関する基礎知識を身に付けるとともに、多様な視点から日本の諸思想を考察できるようになることである。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to acquire basic knowledge about cultural history of reading and to be able to consider Japanese thought from various perspectives.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 第1回：ガイダンス—「読書の文化史」の可能性—
  - 第2回：黙読から音読へ、卷子本から冊子本へ
  - 第3回：寺院版から商業出版へ
  - 第4回：京都書肆と仏書出版の隆盛
  - 第5回：井原西鶴と『好色一代男』の衝撃
  - 第6回：貝原益軒とその読者
  - 第7回：共有知の広がり①—『徒然草』・『源氏物語』と江戸時代—
  - 第8回：共有知の広がり②—『太平記』と江戸時代—
  - 第9回：文化東漸—京都と江戸—
  - 第10回：江戸の文化プロデューサー—葛屋重三郎
  - 第11回：貸本屋と書物知の極限
  - 第12回：蔵書家の誕生
  - 第13回：近代社会と黙読文化
  - 第14回：近世的書物知から近代的書物知へ
  - 第15回：まとめ期末試験
8. 成績評価方法：
  - 期末試験 60%、各授業の終わりに課す小レポート 20%、平常授業への参加度 20%
9. 教科書および参考書：
  - 教科書：必要に応じてプリントを配付する。
  - 参考書：『日本近世書物文化史の研究』（横田冬彦、岩波書店）、『「太平記読み」の時代』（若尾政希、平凡社）
10. 授業時間外学習：各授業の終わりに、より深い理解を目指すための参考文献を紹介するので、適宜自主学習に努めること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
  - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
  - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB32301, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the History of Japanese Philosophy

3. 授業の目的と概要：日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといった関心を誘うテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（2～3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The lecture focuses on topics that attract interest, such as what is Japan, what is thought (thinking), and what is history, while taking up several topics in the history of Japanese thought.

5. 学修の到達目標：日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する基礎的知識と関心を高めることを期待する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal is to train students to think about topics such as what is Japan, what is thought, and what is history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

第1回：ガイダンス、丸山眞男と戦後日本1

第2回：「戦後」とは、丸山眞男と戦後日本2

第3回：丸山眞男「日本の思想」

第4回：加藤周一「雑種文化」

第5回：加藤周一、幽霊と語る

第6回：加藤周一『日本文学史序説』

第7回：原爆と日本思想史

第8回：戦後知識人の限界と課題

第9回：思想と運動

第10回：沖縄から考える（阿波根昌鴻1）

第11回：平和と生命（阿波根昌鴻2）

第12回：生活記録運動（鶴見和子1）

第13回：水俣病運動（鶴見和子2）

第14回：部落解放問題（住井すゑ1）

第15回：女性解放・農民文学運動（住井すゑ2）

8. 成績評価方法：

レポート [50%] 平常点 [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：資料配布

参考書：丸山 眞男（著）、杉田 敦（編集）『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー）

10. 授業時間外学習：小レポート（2～3回）の準備を中心に、教科書・参考資料（授業時に配布）を学習する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本思想史基礎講読／History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：富樫 進

コード：LB35206, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『役君形生記』を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading of “Enkun Gyōsyōki”
3. 授業の目的と概要：『役君形生記』は、天和4年(1681)に僧・秀高によって編纂された、修験道の始祖・役行者の伝記である。本授業では、元禄6年(1693)刊行の東北大学狩野文庫蔵本の輪読を通じて、漢文史料を読み進める際に留意すべき基本的な知識や技術を修得することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Enkun Gyōsyōki” is a biography of Enno-Gyōzō, the founder of Shugendō, compiled by the monk Syūkō in 1681. In this course, participants will read of the book published in 1693 in the collection of Kanō Bunko, Tohoku University. And they will acquire the basic knowledge and skills to keep in mind when reading Japanese historical materials written in Chinese style.
5. 学修の到達目標：本授業の到達目標は、日本思想史をめぐる諸問題を研究する際に必須となる読解能力を育成することである。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to develop the reading comprehension skills that are required when studying various problems related to the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
本授業は、履修者による発表(輪読)と討論を中心に進行する。第1回：ガイダンス／第2回：『役君形生記』および狩野文庫について／第3回：『役君形生記』を読む①／第4回：『役君形生記』を読む②／第5回：『役君形生記』を読む③／第6回：『役君形生記』を読む④／第7回：『役君形生記』を読む⑤／第8回：『役君形生記』を読む⑥／第9回：『役君形生記』を読む⑦／第10回：『役君形生記』を読む⑧／第11回：『役君形生記』を読む⑨／第12回：『役君形生記』を読む⑩／第13回：『役君形生記』を読む⑪／第14回：『役君形生記』を読む⑫／第15回：まとめ
8. 成績評価方法：  
平常点(出席点、および担当回の発表内容)55%、期末試験(レポートの場合あり)45%
9. 教科書および参考書：  
教科書：プリントを配付する。参考書：授業中に適宜指示する。
10. 授業時間外学習：発表担当となった履修者は事前に発表資料を作成する。また、発表担当者以外の履修者は各自予習・復習を行い、不明な点については質疑応答の際に発言できるようまとめておく。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB42503, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史料を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading Historical Materials of Pre-modern Period
3. 授業の目的と概要：近世の人形浄瑠璃文楽の台本を読み、基本的な史料読解能力を身に付ける。具体的には、18 世紀に成立した『仮名手本忠臣蔵』等の史料を読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Read the historical texts of "Bunraku puppet show" and acquire basic reading comprehension skills. Specifically, we read historical texts such as "The Treasury of 47 Loyal Retainers".
5. 学修の到達目標：日本思想史研究に用いる史料を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the knowledge and skills that are essential for accurately reading historical materials used in the study of Japanese intellectual history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1) オリエンテーション
  - 2) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 3) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 4) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 5) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 6) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 7) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 8) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 9) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 10) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 11) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 12) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 13) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 14) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
  - 15) 報告と質疑応答、鑑賞と対話
8. 成績評価方法：

平常点（報告内容・質疑応答・鑑賞・対話への積極的参加の有無）[70%]  
出席点 [30%]
9. 教科書および参考書：

教科書：授業時に配布する。  
参考書：授業時に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：富樫 進

コード：LB65201, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：仏菩薩と文献史料のあいだ
2. Course Title (授業題目)：Between the Buddha, Bodhisattva and the literature
3. 授業の目的と概要：この授業では現存する仏像を導入部に据え、日本古代の文献史料に登場する仏菩薩がどのようなかたちで信仰の対象とされていたのかという点を、思想史的関心に基づいて考察・検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, we will consider and examine how the Buddha and Bodisattva, which was taken up in ancient Japanese literature, was the object of worship. In considering this issue, we use the existing some Buddha and Bodisattva images as an introduction to the argument.
5. 学修の到達目標：本授業の到達目標は、主に文献史料の読解を通じて、日本仏教思想史をめぐる諸問題を分析する方法を修得することである。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to acquire a method of analyzing various problems related to the history of Japanese Buddhist thought, mainly through reading Japanese literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
本授業は履修者による発表（および質疑応答）の内容をふまえ、担当教員が講義を行う。第1回：ガイダンス／第2回：イントロダクション／第3回：釈迦如来／第4回：盧舎那如来／第5回：毘盧遮那如来／第6回：薬師如来／第7回：阿弥陀如来／第8回：聖（正）観音菩薩／第9回：変化観音菩薩／第10回：文殊菩薩／第11回：地藏菩薩／第12回：四天王／第13回：吉祥天／第14回：毘沙門天／第15回：まとめ
8. 成績評価方法：  
平常点（出席点、および担当回の発表内容）55%，期末試験（レポートの場合あり）45%
9. 教科書および参考書：  
教科書：プリントを配付する。参考書：授業中に適宜指示する。
10. 授業時間外学習：発表担当となった履修者は事前に発表資料を作成する。また、発表担当者以外の履修者は各自予習・復習を行い、不明な点については質疑応答の際に発言できるようまとめておく。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：木場 貴俊

コード：LB98802, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：怪異から考える日本思想史

2. Course Title (授業題目) : Cultural History of Japanese Thought about Strange Phenomena

3. 授業の目的と概要：「怪異」あるいは「妖怪」と表現される物事を歴史学的に理解することを目標とする。具体的には、「怪異」や「妖怪」に関して、単純に「いる・いない」と二項対立的に捉えるのではなく、「なぜ人々はそうした物事を記録し、また対応したのか」という、人のいとなみとして考察する。日本近世の状況を中心に見ていくが、古代・中世、そして近現代との関連性についても取り上げる。史料も文字史料だけではなく、絵画や映像などを使うことで、多角的に理解できる内容にする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The goal is to historically understand what is described as "Strange Phenomena" or "Youkai." Specifically, with regard to "Strange Phenomena" and "youkai," instead of simply considering "existence / non-existence", consider as a human activities "why did people record and respond to such things?". We will focus on the situation in the early modern period of Japan, but we will also discuss the relationship between ancient and medieval times and modern times. By using not only textual historical materials but also paintings and videos, the contents can be understood from various angles.

5. 学修の到達目標：歴史学の研究対象とならないように思える物事でも、学問の手続きを踏めば研究対象に昇華することができるという視角と手法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The goal is to acquire the perspective and method that even things that do not seem to be the subject of historical research can be sublimated into the subject of research by following academic procedures.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式で授業を行う。

第1回 「怪異」あるいは「妖怪」を考える、ということ

第2回 歴史的産物としての「妖怪」

第3回 林羅山と怪異1

第4回 林羅山と怪異2

第5回 本草学と怪異1

第6回 本草学と怪異2

第7回 言葉から見る怪異1

第8回 言葉から見る怪異2

第9回 天譴論と天運論

第10回 古賀侗庵と怪異1

第11回 古賀侗庵と怪異2

第12回 化物絵

第13回 都市と地方の中の怪異

第14回 ひろたまさきの「妖怪的世界」

第15回 近代化と怪異

8. 成績評価方法：

授業への参加度 (30%)、レポート (70%)

9. 教科書および参考書：

木場貴俊『怪異をつくる 日本近世怪異文化史』(文学通信、2020)

また、授業中に資料や論文を適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：教科書や授業で紹介した参考文献を読み、予習や復習に役立てること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB51301, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の思想文化
2. Course Title (授業題目)：Japanese thought and culture
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（三枝博音『日本の思想文化』）からセレクト）を精読した発表をもとに、討論をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the text (Saegusa Hiroto "Japanese thought and culture").
5. 学修の到達目標：日本的知性の特質を把握する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Understanding the characteristics of Japanese intelligence.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業の実施形態：オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

授業は基本的に発表・討論形式で進める。発表はテキスト批評を主眼とする。

第1回：ガイダンス

第2回：三枝博音の人と思想

第3回：序論（一 「日本的なもの」に就いて / 二 「世界に誇るべき」日本の文化）

第4回：第一章 日本文化の特質①（一 自然に親しむ民族 / 二 一つの例－俳句に就いて）

第5回：第一章 日本文化の特質②（三 更に一つの例－南画の論理に就いて / 四 日本文化の特質）

第6回：第二章 日本文化と思想性（一 思想性の分析 / 二 わが古典の思想性 / 三 思想の日本的とドイツ的）

第7回：第三章 日本の知的文化（一 知の日本的性格 / 二 日本人と論理的訓練）

第8回：第四章 日本人の自然解釈①（一 わが国自然哲学の曙光 / 二 日本における自然主義）

第9回：第四章 日本人の自然解釈②（わが国における自然解釈の歴史）

第10回：第五章 日本仏教とその思想①（一 仏教の私知的性格 / 二 仏教の遺産とその論理化）

第11回：第五章 日本仏教とその思想②（三 最澄論 / 四 仏教の日本化と源信）

第12回：第六章 日本儒教とその思想①（一 日本思想史と儒教 / 二 日本の市民社会的思想家）

第13回：第六章 日本儒教とその思想②（三 思想家貝原益軒に就いて / 四 安藤昌益の医学）

第14回：第七章 神道と宗教論の問題、第八章 易に就いて

第15回：第九章 経済論その他（一 経済論史に於ける海保青陵 / 二 農学の鼻祖としての宮崎安貞）

※第3～15回のテキストは三枝博音『日本の思想文化』からの例示

定期試験：なし

#### 8. 成績評価方法：

平常点70%（出席30%、発表・討論40%）、レポート30%

#### 9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布します。

#### 10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

#### 11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

#### 12. その他：なし



科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB62301, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西欧化日本の研究
2. Course Title (授業題目)：Study of Westernization of Japan
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（三枝博音『西欧化日本の研究』）からセレクト）を精読した発表をもとに、討論をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the text (Saegusa Hiroto "Study of Westernization of Japan").
5. 学修の到達目標：世界文化の中における日本文化の位置を把握する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the position of Japanese culture in world culture.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：  
授業の実施形態：オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

授業は基本的に発表・討論形式で進める。発表はテキスト批評を主眼とする。

第1回：ガイダンス

第2回：序論-日本の文化の摺みどころ（一 気 / 二 器用 / 三 虚）

第3回：第一章 日本人にとっての芸術①（一 西欧思想以前の日本の芸術）

第4回：第一章 日本人にとっての芸術②（二 ひとつの芸術論-歌論 / 三 昔の日本のある芸術-茶道）

第5回：第一章 日本人にとっての芸術③（四 西欧化以後の文学論）

第6回：第二章 日本人にとっての人間解釈①（一 日本人にとっての法の思想 / 二 日本人にとっての教育思想）

第7回：第二章 日本人にとっての人間解釈②（三 日本人にとっての道德思想 / 四 日本人にとっての修養）

第8回：第二章 日本人にとっての人間解釈③（五 日本人にとっての兵法 / 六 日本人にとっての儒教）

第9回：第三章 日本字にとっての自然と歴史（一 自然はどう受けとられていたか〈その一〉

/ 二 自然はどう受けとられていたか〈その二〉 / 三 歴史はどう受けとられていたか）

第10回：第四章 日本人の学問と日本人の思索①（一 学問はどう受けとられていたか）

第11回：第四章 日本人の学問と日本人の思索②（二 哲学はどう進められたか）

第12回：第四章 日本人の学問と日本人の思索③（三 思索はどう深められたか）

第13回：第五章 日本人の宗教①（一 西欧の宗教と日本人のそれとの違い）

第14回：第五章 日本人の宗教②（二 仏教の庶民性と非庶民性 / 三 問題を提出したキリスト教）

第15回：第六章 西欧思想の受け入れ方

※第2～15回のテキストは三枝博音『日本の思想文化』からの例示

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 70%（出席 30%、発表・討論 40%）、レポート 30%

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：引野 亨輔・片岡 龍

コード：LB53306, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントターを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：As a preparatory step to preparing a graduation thesis, students will present their typical research and major historical materials on the topics they are interested in. (See Japanese text above for details.)

5. 学修の到達目標：卒業論文のテーマの決定

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Determining the thesis theme.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表1
- 3 研究発表2
- 4 研究発表3
- 5 研究発表4
- 6 研究発表5
- 7 研究発表6
- 8 研究発表7
- 9 研究発表8
- 10 研究発表9
- 11 研究発表10
- 12 研究発表11
- 13 研究発表12
- 14 研究発表13
- 15 研究発表14

8. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ぺりかん社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LB63307, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought 2

3. 授業の目的と概要：前セメスターでの報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Based on the report from the previous semester, each participant of the exercise will announce subsequent research results based on the reading of historical materials, and will discuss the contents. (See Japanese text above for details.)

5. 学修の到達目標：卒業論文作成の準備と研究内容の深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Preparation of graduation thesis and deepening of research contents

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ぺりかん社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし